

報道機関各位

奥久慈地域の枝物安定生産に向けた検討会を開催します

(いばらき農業アカデミー 令和6年度品目別先進農業技術講座として開催)



枝物(切り枝)は日持ちがよく、季節感を演出するため、近年、催事会場等の装飾をはじめ、家庭用インテリアとしても需要が高まっており、茨城県全体で55億円(R4)の産出額があります。県北部に位置する奥久慈地域は、全国有数の枝物産地で、約250品目の枝物を栽培していますが、**そのうち主力品目である「ハナモモ」と「ドウダンツツジ」は、2品目で産地全体の販売額の約2割を占めています。**

しかし、**ハナモモ**では、一部のほ場で株枯れ症状が発生しており、産地で問題となっています。また、**ドウダンツツジ**では、これまで山に自生しているものを収穫していましたが、数に限りがあることに加えて成長に長い年月がかかるため、年々拡大する需要への対応に苦慮しています。

山間地帯特産指導所では、こうした産地の課題を解決するため、ハナモモの株枯れ対策に寄与する台木の選定や、ドウダンツツジの苗木を生産者自らが育苗できる技術の確立に取り組んでおり、このたび、研究成果を取りまとめたので、生産者等へ説明し意見交換を行います。

つきましては、本検討会について、是非取材して頂きたい、ご案内いたします。

【日時】 令和6年11月7日(木) 13:30~15:30(受付開始 13:00)

【場所】 山間地帯特産指導所(大子町頃藤6690-1) 受付場所: 2階会議室

【参集範囲】 県内枝物生産者、JA・市町・県等の関係機関 40名程度

- 【内容】
- 1 ハナモモの安定生産技術について(13:30~14:10)
 - 2 ドウダンツツジの苗木増殖・育苗技術について(14:10~14:50)
 - 3 ほ場見学(14:50~15:30)

※当日は、ほ場での検討も行うことから、汚れてもよい服装や履物、雨具持参でお越しください。

※小雨決行ですが、荒天の場合、ほ場見学は中止することもあるので、予めご了承ください。



ハナモモ: 本県産は開花揃いが良く、市場から高い評価を得ている

左図: 出荷に向けた開花調整の様子

右図: ピンクや白の花を咲かせるハナモモ



ドウダンツツジ: 涼やかな新緑が特徴で、近年、中国等の海外からの需要も高まっている

左図: ドウダンツツジの切り枝

右図: 苗の様子

【問合せ先】 茨城県農業総合センター山間地帯特産指導所 担当: 唐澤・助川 TEL: 0295-74-0821

FAX: 0295-74-0769

e-mail: santoku@pref.ibaraki.lg.jp

参考資料

○ハナモモの株枯れ症状

ハナモモの株枯れとは、冬から春先にかけて新しい枝が伸びず、短期間の内に枯死する症状です。収量の減少につながることから、ハナモモ生産者からは早急な対策技術の確立が求められています。

株枯れには連作障害や土壌条件、低温等、様々な要因が影響していると考えられますが、原因は特定されていません。



生育良好な株（左）と株枯れ症状の株（右）

○ドウダンツツジとは

ドウダンツツジは、涼やかな緑と細やかな枝ぶりが特徴で、催事関係から一般家庭まで幅広く利用されており、国内外で需要が増加しています。

ドウダンツツジは、山林内に自生している株から枝を採取して出荷していますが、採取できるようになるまで10年以上かかるため、効率的な増殖技術の確立が求められています。



山林に自生しているドウダンツツジ

○ドウダンツツジの苗木増殖・育苗技術

当所では、ドウダンツツジの持続可能な生産体制の確立に向けて、育苗技術の開発に取り組んでいます。

本種の栽培に関する試験研究の事例はほとんどないため、種子を採る方法から始まり、最適な播種の時期、発芽・育苗に適する光条件や培土の種類、育苗した苗木を植える際の最適な環境条件の調査など、様々な試験を実施してきました。

その中で、これまでに開発した苗木増殖技術をマニュアル（暫定版）としてまとめ、枝物生産者へ配付し、技術の普及を図っています。

現在は、追肥が苗木の生育に与える効果等について検討しているところです。



当所で作成しているドウダンツツジ苗木生産マニュアル（一部抜粋）



追肥による苗木の生育促進効果の検証（左：追肥なし、右：追肥あり）